



# 機関リポジトリの起源 と方向性

慶應義塾大学文学部

倉田敬子

# ● ● ● | 機関リポジトリとは？

- 共通要素

- 1) 電子情報資源

- 2) 収集、蓄積、提供システムとサービス



- 多様な定義と強調点

- 広義の電子アーカイブの一種
- 機関の成果物に限定
- 著者のセルフアーカイビングが原則

# ● ● ● | 機関リポジトリの理念、目的

現状：とにかく構築する



- 1) 新たな学術情報流通の促進
- 2) 大学の説明責任、知名度の上昇
- 3) 大学の電子情報資源の保存



すべて異なる文脈

# 起源

- 1994 Harvard **オープンアクセス** し  
セルフアーカイビング
- 1999 OAI発足、サンタフェ規約 明記なし  
メタデータ / 相互運用性  
→ 2001 OAI **技術標準**
- 2000 EPrint, 2002 DSpace  
オープンソフトウェア
- 2002 SPAR **大学図書館**  
大学図書館による機関リポジトリ概念



# 機関リポジトリの2つの文脈

- オープンアクセス

- 2004 英国下院科学技術委員会報告  
機関リポジトリによるOAの勧告

- 大学、大学図書館の「電子アーカイブ」

- 2002 Crow論文、2003 Lynch論文  
2002～ 大学図書館による実践  
SPARC、NIIなどによる支援

# オープンアクセスの実現方法

0. 著者のウェブサイト

1. 機関リポジトリ

2. e-print archive

3. PubMed Central

4. オープンアクセス雑誌

セルフ  
アーカイブ

# オープンアクセスの実現方法

## 0. 著者のウェブサイト

1. 著者が自分のサイトで  
研究成果を公開

2.



3. 不安定、永続性がない

## 4. オープンアクセス雑誌

セルフ  
アーカイブ

# オープンアクセスの実現方法

0. 著者の権利

1. 機関リポジトリ

2. e-print

3. PubMed

4. オープンアクセス雑誌

大学図書館が実施

- ・メタデータ付与、管理
- ・永続性と信頼性
- ・機関単位
- ・分散処理

フ  
イブ



# オープンアクセスの実現方法

0. 著者のウェブサイト

1. 機関

2. Preprint

3. Pub

4. オープンアクセス雑誌

研究者コミュニティ

- ・研究者の強いニーズ
- ・プレプリントの伝統
- ・伝統的学術出版の補完

フ  
ライブ

# オープンアクセスの実現方法

## 0. 著者のウェブサイト

### 1. 機関リポジトリ

### 2. e-print

### 3. Pub

### 4. オープン

セルフ  
アーカイブ

#### 政府一元管理

- ・研究助成と義務化
- ・1年間のエンバーゴ
- ・出版社による提供？

# オープンアクセスの現状

- 2005年の生物医学分野  
OAの割合: 26%

(複数回答)

	OA論文に占める割合
オープンアクセス雑誌	72.1%
PubMed Central	26.0%
雑誌プラットフォーム、無料サイト	17.5%
機関リポジトリ	5.9%
著者ウェブサイト	4.8%

# ● ● ● | 日本の現状

- 66リポジトリ (2007.11.8 NIIサイト)
- 2007.3 『次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業中間まとめ』

58リポジトリ / 約46万件

## [内容]

貴重書・文書・写真・映像資料	38%
紀要論文	32%
学術雑誌論文(プレプリント含)	9%
データ	13%



# 米国の現状

- McDowellの調査(2006.11-2007.3)

D-Lib Magazine 13(9/10) 2007

[数] 97リポジトリ ROAR:223(2007.11)

[規模] 約20万件 平均2,067件  
100件以下が31%

[収録対象]

学位論文 37%

学術雑誌論文 13%

灰色文献 23%

# ● ● ● | 機関リポジトリの位置づけ

オープンアクセス  
の動向

機関リポジトリ  
の現状

オープンアクセスではない  
文脈からの位置づけ

今後の方向性

# ● ● ● | 機関リポジトリの今後の方向性1

## ● オープンアクセスの文脈

- 海外学術雑誌は学術雑誌側主導

➡ 機関を生かしたコレクション

- 日本語の国内研究成果の出版

- 大学紀要の出版プラットフォーム
- 雑誌出版への参画

## ● ● ● | 機関リポジトリの今後の方向性2

- 新たなシステムのモデル提案
  - コンソーシアムリポジトリ
  - 保存機能の共有システム(サービス)
  - メタデータの自動生成、インフラ整備



多様な電子アーカイブ・モデル  
との類似



# ● ● ● | 機関リポジトリの今後の方向性3

- より大きな文脈との関連
  - E-ScienceやData-driven Science
    - ➡ Cyber-Infrastructure
  - E-ラーニング
  - テキスト・アーカイブ（歴史、文学）

何をめざすのか：目標と戦略の検討